

医療における情報(薬剤)の標準化を考える

杏林大学医学部付属病院 薬剤部 若林進

薬効分類・薬価収載コードと 同効薬検索の問題点

薬効分類と 同効薬検索システム

図1は、錠200mgも、リピディル錠53・3mgも、パルモディア錠0・1mgも、いづれも4桁が同じである。同効薬検索の技術には薬効分類番号や薬価収載コードを利用している場合が多く、図2はその例である。

近年、電子カルテや医薬品情報アプリなどで、同効薬の検索機能を有しているものがあり、一部のAIシステムなどで実装されているとの話も聞く。同効薬検索の技術には薬効分類番号や薬価収載コードを利用している場合が多く、図2はその例である。

図1 薬効分類2183の例

薬品名：ベザトールSR錠200mg 一般名：ベザフィブラート	2183005G1234
薬品名：リピディル錠53.3mg 一般名：フェノフィブラート	2183006F3023
薬品名：パルモディア錠0.1mg 一般名：ハマフィブラート	2183007F1025

図1は、錠200mgも、リピディル錠53・3mgも、パルモディア錠0・1mgも、いづれも4桁が同じである。同効薬検索の技術には薬効分類番号や薬価収載コードを利用している場合が多く、図2はその例である。

以下が本稿で最も述べたかったことであるが、薬効が最もうまく分類されていないものとして、「39999」：他に分類されない代謝性医薬品・その他」があり、「薬効分類の39999問題」などとも呼ばれている。「その他」の中の「その他」であるから、もはや分類されているとは言えないだろう。

プログラファカプセル1mg(タクロリムス水和物)は39999014M1022、フォイバン錠100mg(カモスタットメシル酸塩)は39990033F1297、ベネット錠75mg(リセドロン酸ナトリウム水和物)は39999019F3037が薬価収載コードである。前述のようなシステムで、ビスホスホネー

「薬効分類の39999問題」に挙げさせていた

おわりに

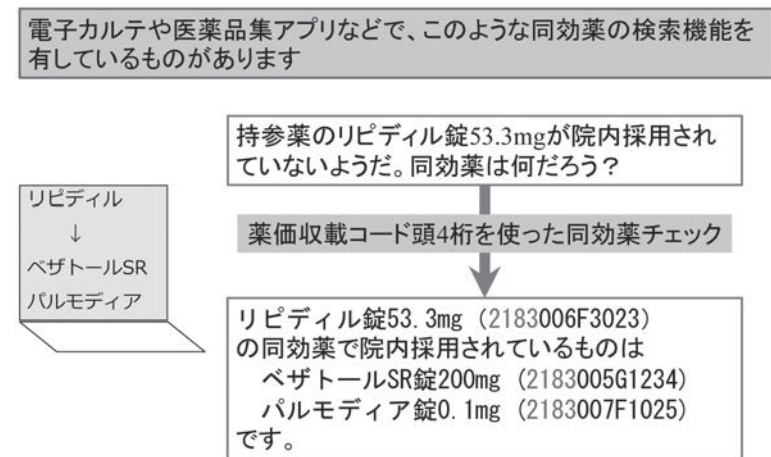
漢方製剤の薬効分類は全て「5200」になるため、前述のシステムでは、全ての漢方薬が同効薬という扱いになってしまう。

ことが分かる。近年、新規化合物の増加により「その他」の薬効に分類される医薬品が増えていることも多く、例としてアダリムマブ、エタネルセプト、シナカルセト、セクキヌマブ、セルトリズマブペゴル、デノスマブ、トファシチニブなどが挙げられる。

参考

- 1) 医療用医薬品に関するコードについて：日本ジェネリック製薬協会 https://backup.jga.gr.jp/jgapedia/column/_19335.html
- 2) 診療情報提供サービス：厚生労働省保険局 <https://shinryohoshu.mhlw.go.jp/shinryohoshu/>
- 3) 若林進, 田中秀和：医療用医薬品の薬効分類番号からみた「その他」の分類に関する調査, 日本薬学会第141年会, 2021.

図2 薬効分類を利用した同効薬の確認の例



は、それぞれ「消化性潰瘍剤」ではあるが、代替薬としての提案は疑問である。消化性潰瘍剤の薬効分類番号は「23021」：消化性潰瘍剤・メ

は、それぞれ「消化性潰瘍剤」ではあるが、代替薬としての提案は疑問である。消化性潰瘍剤の薬効分類番号は「23021」：消化性潰瘍剤・メ

漢方製剤の薬効分類は全て「5200」になるため、前述のシステムでは、全ての漢方薬が同効薬という扱いになってしまう。

だいたいが、薬効分類番号の4桁を使って、同効薬を検索するようなシステムは大変危険であるため、実際には薬価収載コードの桁数を増やして運用している施設が多い。しかし、このようなコード体系を把握できていないまま運用されているアプリなども見受けられ、それらを「AI」などと称している場合もあるようである。医薬品検索のシステムに「同効薬」などのボタンがあった場合、うまく表示されない場合もあることを認識しておく必要があるだろう。また、今後のAI化、DX化に向けて、新たな薬効分類を示すような標準的なコードが必要となってくるのではないだろうか。